

第4回 栃木県立馬頭高等学校 学校運営協議会 報告

- I 開催日時 平成30年11月13日(火) 13:30～16:00
- II 開催場所 栃木県立馬頭高等学校 水産科実習場 会議室
- III 出席委員 岡 道吉 大島 富美子 大金 武夫 大金 浩 小川 浩子
小川 正典 田島 良久 笹沼 達彦
欠席委員 大金 市美 益子 洋子

IV 内容

1. 開会

2. 授業・施設見学 (5時間目)

水産科3年課題研究(水産科実習場) 5時間目

3. 報告 (14:50～)

「運営方針に関する取り組み状況について」

- 3年生の進路状況について…地元の協力ありがたい
進学 4年生大学1名(作新大…結果待ち)
- 本年度より単位制
来年度の選択科目希望状況…希望通りになりそう
課題…数学Ⅱの選択者がゼロ
- 魅力化予算について…現在備品消耗品の購入整備中
- 施設整備の執行状況について
- 第1回県立高校進学希望者数 普通科 41/80 水産科 25/25

〈質疑応答〉

(1) 進路について

- 前年同期とくらべての状況は?
ー若干下回ってる
- 理由は?
ー本人の希望でいくので、ミスマッチが起きてるかもしれない。
ー求人は多い。えり好みしなければ進路は実現するが、居住地の問題等がある。
- 他の高校と試験すると差がある。そういう意味で現行の教科書なども他の学校のレベルと同レベルにしないと、進学にしても大変だろうし、就職にしても難しくなるのでは。学校内の勉強に関してもレベルをあげないと就職するのも厳しいのかと感じている。筆記試験の点数が低い。
地元は、馬高を優先してくれるが、農協などになると、弱い。
- 進学も就職も難しいでは、いかがなものか。就職の試験くらいはできないと。やり方を考えないとまずいのでは。
- 役場に最後に入ったのが20代で一人。出口をしっかりとってくれないという現場の意見。
- 学力だけでなく、すばらしい所もあるはず。例えば、スポーツやってたとか。馬高の良

さをどうやって活かしていくかが大切。馬高からの希望者がいないという企業もある。学力をあげると言っても、簡単に解決する問題ではない。

- たとえば、クレーンの試験なども、最後には受かる。やろうとすれば受かる。気力があるかないか。やろうとしなければできない。高校としても、今日がだめでも1年後を見据えるような気持ちでの教育が大事。
 - －基礎基本。学び直しをすると学力差がある。教員は低い方に照準を合わせる。われわれの課題として考えねばいけない。
- 数学Ⅱ選択者がゼロ、というあたりを見てもわかる。先生方にご苦勞かけるがよろしくお願ひしたい。
 - －できるだけ少人数で、学力別でやりたいが、小規模校なので、教員数も少ない。
- 低学力で入ってくる生徒に社会人としての学力をどうつけさせるかが課題だ。

(2) 来年度の2学年選択科目について

- 3年生については？
 - －単位制については現1学年が関係している。
 - 3年生になったら継続してもらいたかち？

(3) 予算について

- 来年度の魅力化推進予算は
 - －できれば来年度もということで希望している。
- 授業を進めていく上で、絶対に必要なものがあるはず。
 - －農業とかは予算が必要
 - 研究指定などもあるので、県へも申請してみる。。
 - うまく農協とかと提携できれば、支援してもらいたい。
- マルチメディアのねらいは何か？
 - －遠隔授業。大学の授業を水産科などに専門の勉強をさせたい。
 - 教員が減る中での活用方法もある。教育センターから芸術の授業配信など。
 - 水産科実習場と本校とを結ぶことも考えられる。
- 大学や大手予備校などつながりをもてれば、学力向上にもつながる。
- 農協にも交渉したいが、具体的にどういうことをやるのか、どういう協力があるといいのかがわかると交渉しやすい。
 - －今、来年度の計画を立てている。
 - －農業関係で必要な物、ずっと続く物は、当然考えている。
- 生徒らは農業に関して興味があるものなのか。
 - －わりと普通科でも興味を持つ生徒が多い。
 - 家庭環境などの影響もあるか。

4. 協 議

「学校の魅力化、特色化について」

- 自由に、意見を出してください。
 - 状況が一步進んだ段階で、ということで、意見を頂きたい。
- 那珂川地区に馬頭高校を再度PRしてはどうか。CTBを活用して。毎回PRしてはどうか。烏山の広報には烏高のニュースが載っている。広報を使うのも手だろう。編集が大変だろうが、魅力を町民に理解していただく。負担のない程度に来年度くらいから、月1

でも年に12回できる。来年4月から是非。まずは町から初めてみては。

- C T Bについては去年から出ているが、絵に描いた餅みたいになってる。せっかくいい武器があるのだから、利用すべき。生徒たちに運営してもらおうような形で。先生の負担も減るような形で。
- 費用はかからない。
 - ※町企画財政課 広報に掲載することについては制限はない。スペースがわかってれば掲載は可能。C T Bについては馬高が番組を作るなら協議は必要だが、不可能ではない。拘束時間が長くなるので、尺を短くして続けやすい形にすれば十分やっていけるのでは。
 - 広報の方は、一ヶ月前には言ってくれれば。業務委託先と協議をして、年間決定の中のどこに入れるか。
- プランをしっかり立てて持っていないと。
- H Pを見て選択する生徒も多い。生徒たちが魅力を感じるものを。島根県の隠岐島前高校のH Pは魅力を感じると思う。動画などを撮っておいて載せると説得力がある。
 - ー動画載せたいが、まだ載せられていない。
- P Rということで魅力を伝える。
 - ー一日体験の時期になると閲覧数が増える。
 - 町のH Pに、馬高をリンク貼るのは可能か。
 - ※企画財政課 相談してみないとわからない。
- 町のグループでも支援しようという話にはなっている。
- 部活動について、17部あるが、小規模校で生徒数減。後援会費も減。後援会費まわらないし、生徒・職員も回らない。来年の4月の段階で、様子を見て精選したい。了解を頂きたい。今年度の成績としては、アーチェリーとレスリングが関東とインターハイに出場。水産科が千葉、北海道で発表した。
- スポンサーがつくのはまずいのか。
 - ー全国の場合、寄付を募ったことはある。
 - クラウドファンディングとまではいわないまでも、考えてみたい。
- 小中学校では寄付も要請がくる。
- 部活動の精選については、異議はないか。
 - 指導者について、専門的な指導者というのは可能か。
 - ー厳しい状況にある。アーチェリーの専門はいない。外部指導者を見つける必要がある。教員の中にはいない。レスリングもいない。
- 選択教科とも関連するが、専門の指導者を外部から充てるのか。
 - ー地元の窓口がわからない。
- どういう部で、どういう指導者がいるといいのかを示すと良いのではないか。
 - ー正規の教員なら県に要望することは可能。
- 正規職員を県から手当していただくことが先かもしれない。
 - ー教職員課とのやりとりがまず必要か。
- レスリングとアーチェリーをP Rすると中学生も興味を持つかもしれない。
 - 存続の危機にある部はどこか。
 - ー野球、男子バスケットボール、吹奏楽など。
 - アーチェリーは個人強いが、団体は厳しい。レスリングも階級に一人しかいない。
- 指導者について、委員の皆さんのご協力をいただきたい。
- 馬頭高校は入れたくないという家族や行きたくないと息子が言ってるという人がいる。そういう中で、41名が行きたいと行ってくれたことは重くみたい。これは我々もきちん

と受け止めなければならないと思う。「こない」と失望するだけでなく、こういう生徒を大事にして、「よかった」と思ってもらえるようにしてほしい。

- いい学校にいて、いい会社にいて…と考えると、他の高校になってしまう。ここに来て大丈夫なんだ、と思われるように。
- あやふやなことを見て判断するのではなく、きちんとしたところをみてもらいたい。
- 就職も進学もできるということを見せればよいのではないか。
- 我が家の子供は馬高で楽しかったと言っている。校長先生もよかった。何もかも楽しかったようだ。
- PRについてしっかり取り組もう。部活動は精選の方向で進めてほしい。集中した部活動にはしっかりした指導者をつけ、それを魅力の一つにできるように。
- 今までは全国募集は5人だったが、来年からは、何人でも全国から入学可能になる。
- すごく大きなことだ。千載一遇のチャンスととらえて、活かさないといけない。地域としても、寄宿舍の問題が急務。
- 地域も下宿先を募集していることを知らない人が多い。
- 個別に頼みに行くなど工夫したい。

5. その他

次回は最終回

3月予定で、内容は最終報告、学校評価、来年度の運営方針などの予定。

6. 閉会